****

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・空き箱や空き缶で形作りをして，面など形に着目して立体の特徴をとらえる学習をしている。

○既習とつなぐ見方・考え方

・空き箱や空き缶を並べたり，重ねたり，転がしたりして，立体の特徴を機能的にとらえる学習をしている。

≪学習問題≫

にているかたちを

みつけよう。なかま

にわけると　どんな

なかまになるかな。

教材研究ノート№1-B-2

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

≪学習問題≫

ア　　イ　 ウ　 エ　 オ　 カ　 キ

②見通し: ウと似ている形はどれだろう。

→ウとキは「ボールの形」。どこへでも転がる形だ。

②学習課題:　ア，イ，エ，オ，カについて，転がるかどうかを考えて，仲間分けしてみよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:5つの形を転がるかどうかで仲間分けする。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どんななかまに，分けられるかな？」

→「一方向に転がる形と，転がりにくい形に分けられる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「アとエは大きさや向きが違うけど，似ている形といえるかな？」

→「エを横に倒して小さくすると，アと同じ形になる。」

「似ている形を考えるときは，形の大きさや向きは関係ない。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・どこへでも転がる「ボールの形」（ウとキ），一方向に転がる「筒の形」（アとエ），転がりにくい「箱の形」（イとオとカ）がある。

・形の仲間分けをする時は，大きさや向き，色，材質は関係ない。

⑥定着･活用問題

1. みのまわりで，「つつのかたち」と　にているかたち

をさがしましょう。

そのかたちが，「つつのかたち」になっているのは

どうしてかな。おはなししてみましょう。

1. すなにうもれているかたちは

　　　　　　　どれかな。

****

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・「いろいろなかたち」を学習する準備として，空き箱や空き缶集めをしておき，並べる・積み重ねる・転がすといった操作活動をしたり，実物に触れたりできるようにしたい。

・形の認識には，個人差があると考えられる。似ている形を考える時には，大きさや向きにとらわれている子どもの疑問を大事に取り上げたり，積み木と対応づけたりする場を設けたい。

【板書計画】